



高温・多照の気象が続き、品質への影響が懸念されます！

「適正な水管理」で、登熟後期まで稲体を健全に保ちましょう！

コシヒカリの生育状況(7月30日調査・調査地点平均値)

項目	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
指標値	5/8	92	360	12.8	33.0
寺泊	5/7	97.4	333	13.0	31.3
和島	5/5	94.1	329	13.0	32.8
出雲崎	5/5	94.0	301	13.0	29.7
与板	5/11	100.9	410	13.0	30.8
三島	5/9	96.0	363	13.0	30.7
こしじ	5/13	89.4	386	12.7	31.7
管内平均	5/8	94.8	350	12.9	31.3

- ・草丈：指標値比%「やや長い」
- ・茎数：指標値比%「やや少ない」
- ・葉色：指標値比「淡い」

コシヒカリの出穂期は8月1日頃(7/30~8/4頃)と平年より“早まる”見込みです。

- ①7月9日の梅雨明け以降、高温・多照の天候が続き葉色の低下が進み、稲体の活力が低下しているほ場が多く見受けられます。
- ②今後も高温傾向が続く見込みです。地耐力が確保できる限り飽水管理の徹底を図るとともに刈遅れが発生しないよう早めに作業計画を策定しましょう。

### 1. 後期栄養確保対策

葉色の淡い圃場は、必ず3回目穂肥を行いましょ！

#### ◎ 3回目穂肥対応

管内のコシヒカリでは出穂期を迎えている中、急激に葉色の低下しているほ場(SPAD:30以下)が確認され、後期栄養不足による“著しい品質低下”が懸念されます。今後も気温の高い気象傾向が続く見込みであることから、緊急的に次の対策を実践して下さい！

- ① 葉色値が30を下回っているほ場では、県認証基準の範囲内でN成分1~1.5kgを直ちに施用して下さい。
- ② 県認証基準を超えてしまう場合は、有機質100%肥料(ケイフンなど)を使用して下さい。
- ③ 肥料散布と合わせて飽水管理を徹底し、根の活力維持と速やかな養分吸収を促しましょう。

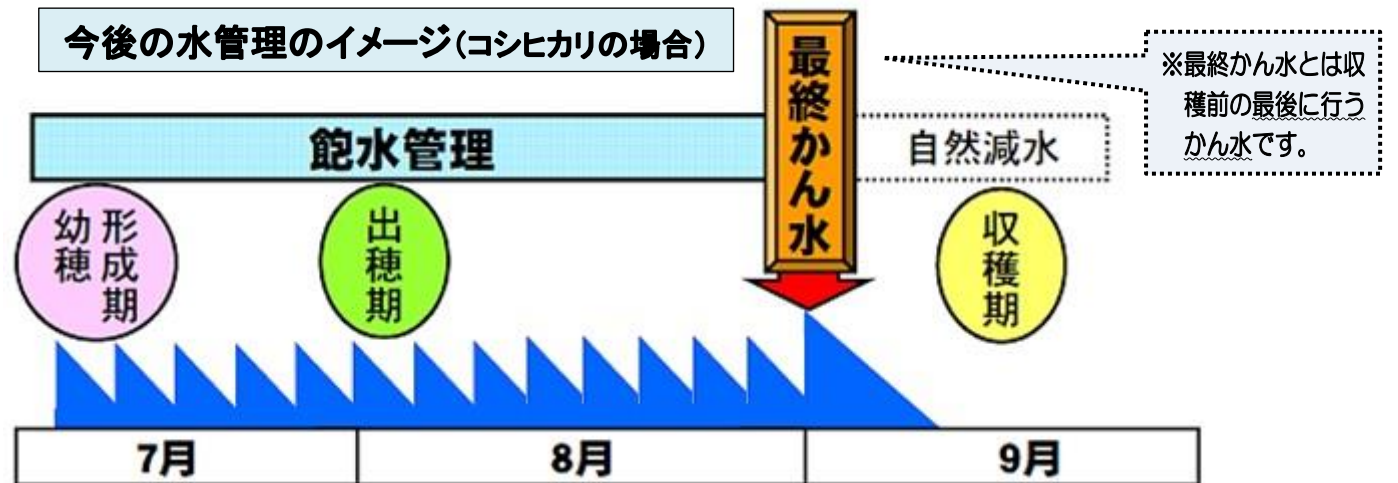
### 2. 後期水管理

- ✗ 極端に大きなヒビ割れ(断根を助長)、長期間にわたるタメ水(根腐れを助長)は絶対に行わない。
- 登熟期間は、引き続き高温気象の予報であることから、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を徹底し、かけ流しなどは行わずに用水の有効活用に努めましょう。
- 地耐力が確保できる限り、なるべく登熟後期まで飽水管理を継続することにより、土壌水分を維持しましょう。



高温・多照の気象により、収穫時期が平年より3~5日早まる予想です！

「最終かん水日」は出穂後25日以降を目安とし、あわせて暗渠栓の開放を可能な限り遅くする。



### 3. 出穂期と刈取適期(予想) 寺泊・和島地区版

早生品種は、出穂後の平均気温が高く、立毛割れ粒の発生が懸念されます。刈遅れは、更に割れ粒の発生を助長しますので、下表の刈取適期(予想)を参考に“早め”の刈取作業計画を立てるとともに、機械の点検・清掃等の刈取準備を進めましょう。

品種名	出穂期(予想)	刈取適期(予想)	積算温度の目安
五百万石	7月18日~7月22日	8月22日~8月26日	925℃ (高温年の為-50℃)
わたぼうし	7月18日~7月22日	8月22日~8月26日	
ゆきん子舞	7月24日~7月30日	8月28日~9月4日	
こしいぶき	7月25日~7月28日	8月29日~9月2日	
ゆきの精	7月25日~7月30日	8月29日~9月4日	950℃ (高温年の為-50℃)
ゆきみのり	7月18日~7月23日	8月23日~8月28日	
こがねもち	7月26日~7月30日	9月1日~9月5日	1000℃
コシヒカリ	7月30日~8月4日	9月8日~9月13日	
越淡麗	8月6日~8月10日	9月17日~9月22日	1,000~1,050℃
新之助	8月8日~8月12日	9月22日~9月27日	
あきだわら	8月9日~8月13日	9月27日~10月3日	1,100~1,200℃

※ 刈取適期(予想)：寺泊アメダスデータの積算で算出(7月29日までは本年値、以降は平年値)  
※ ほ場ごとの出穂期や今後の天候等により前後します。

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~  
次回稲作情報：8月中下旬頃「刈取適期(予想)、収穫期対策」(予定)